

クローズアップ

空調

オフィスで快適に過ごすには空調機器の導入が必要不可欠だ。しかし光熱費のことを考慮すれば初期費用もランニングコストも安く抑えたいと考えるビルオーナーは多いだろう。今頁では省エネやコストを抑えることができる空調機器や湿度コントロールできる製品を紹介する。

ダイナエア



代表取締役
宮内 彦夫氏

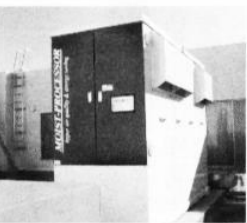
ダイナエア(東京都千代田区)は、人と環境にやさしい液式調湿換気システム「モイストプロセッサ」の開発および販売を行っている。室内環境を快適にするためには湿度の管理が重要だ。通常、室温は20℃、28度に設定されているが、同じ温度でも空気中に含まれる水分の量によって体感上の暑さや寒さが変わってくる。夏は除湿、冬は加湿して湿度を調節することで室内の快適性を高め、結果的に冷暖房の使用コストも抑えることが可能となる。

代表取締役の宮内彦夫氏は「外気のなかでも湿度のエネルギーは大きくコントロールすることは大変です。湿度を調節する空調機器は昔から販売されていますが、従来の技術では大量のエネルギーが消費され、設備コスト

湿度調節で快適な室内環境を作る

やランニングコストもかかってしまう製品ばかりでした。当社が開発した「モイストプロセッサ」は、インシャルコストはかかりますがランニングコストはかなり抑えることができます」と語る。

湿度を重視した空調器の入れ替えサイクルには健康上にも良い効果を発揮する。「モイストプロセッサ」の納入先で最も多いのは介護施設だ。同製品は花粉やPM粒子、放射能塵などを除去しインフルエンザなど集団感染のリスクをある程度抑えることができる。空調機



製品画像

「テナントビルの一室」が医療施設で、その空間だけ別グレードの空調を導入したいという問い合わせもありました。品質の高いう製品なので一般のオフィスに設置しても効果は高いと思います」

いであるべき医療空間と人が多く喫煙率が高いなう空間という両極端で効果を発揮することができると宮内氏は自信を見せる。